慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	レイコフ&ジョンソンによる「上下」のメタファー論再考：日本語とロシア語に基づいて
Sub Title	Review of up/down metaphors in English, Russian, and Japanese within the Lakoff-Johnson framework
Author	朝妻, 恵里子(Asazuma, Eriko) Golovina, Ksenia( )
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2021
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 人文科学 (The Hiyoshi review of the humanities). No.36 (2021.) ,p.1- 15
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10065043-20210630-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

レイコフ＆ジョンソンによる「上下」のメタファー論再考

――日本語とロシア語に基づいて――

朝妻恵里子／ゴロウィナ，クセーニヤ

はじめに

本来は非空間的な概念に「上下」などの空間的な方向性を与えて概念化することを方向性のメタファーという。空間を表す語彙は物理的な空間を特徴づけるだけでなく，心理，能力，社会的役割などの私たちの主観をメタファーとして特徴づける働きがある。私たちは言葉を文字どおりの意味として直接，理解するだけでなく，比喩的な意味拡張によって生成された派生的な意味を容易に理解し，複雑な気持ちや考えを文字どおりに言い尽くせなくても，比喩を駆使して相手に伝えることができる。空間に依拠するメタファーにはたとえば，前後，左右，遠近，内外，高低，後先など多くあるが，なかでも上下の空間認知は重力の存在もあって非常に安定したもので，多くの言語で多様な表現を支える重要な役割を担っている。前後や左右といった空間認識は，視点を変えれば前後，左右が簡単に逆になるが，上下がひっくり返ることはほとんどないため，メタファー表現もメタファーであることに気づかないほどに浸透し，わかりやすく安定している。

こうした空間に基づくメタファーは，多くは身体的，文化的，社会的な経験に基づくもので，恣意的なものではなく，話し手・聞き手の日常的な感覚と結びついている。上下の表現の多くは，私たちの経験のなかでももっとも直接的な身体的経験に根ざしているため，言語を越えた普遍性がみ

られる一方で，文化的，社会的な経験に基づく上下メタファーもあるため言語による個別性も有している。

上下のメタファーについてはLakoff ＆ Johnson（1980）の研究から始まり，その後Taylor（1989）によって３つの分類（数量，評価，支配）に整理されたり，日本語に関しても谷口（2003），山梨（2012）などで多くの議論がなされている。本稿では上下メタファー研究の基本となっているLakoff ＆ Johnsonの10の分類に従って，日本語とロシア語の例を列挙し，両言語で共通する表現と共通しない表現を探し出し，日本語話者とロシア語話者の空間認識の相違の一端を明らかにしたい。Lakoff & Johnsonはこの10の分類をさらに身体的，物理的，社会的，文化的経験に基づくメタファーという下位区分を設けているが，その通りにみていく。また本稿の英語の例文はLakoff & Johnsonによるものである。

１．身体的経験に基づく上下メタファー

① HAPPY IS UP ; SAD IS DOWN「楽しいことは上，悲しいことは下」

１）I'm feeling *up*.（私は生き生きとした気分だ。）

２）I'm feeling *down*.（私は落ち込んでいる。）

３）He's really *low* these days.（最近，彼は落ち込んでいる。）

４）Как *поднять* себе настроение?（どうやって気分を上げる？）

５）Я на *седьмом небе* от счастья.（私は７つ目の天に昇ったように幸せだ。）

６）Он *запрыгал* от счастья.（彼は幸せで飛び上がった。）

７）Настроение совсем *упало*.（気分がひどく落ち込んだ。）

８）Настроение на *нуле*.（ひどい気分だ＝気分はゼロ）

９）彼は<u>飛び上がって</u>喜んだ。

10）気分の<u>浮き沈み</u>が激しい。

11）みんなが悲しみに<u>沈んだ</u>。

嬉しいときは上を向き，飛び上がったり，手を突きあげたりするのに対

し，悲しいときは下を向き，座り込んだり倒れたりする。こうした身体的な反応は普遍性が高いため，言語表現においても上下という垂直軸で対称的に表現されることが多い。例文５）は英語でも be on cloud nine という似た言い回しがあるようにイディオムと考えられるが，日本語ではこうした数字を用いた気分の表現はない。同じく例文８）もゼロといった具体的数値で上下を表すのは興味深い。

② CONSCIOUS IS UP；UNCONSCIOUS IS DOWN「意識は上，無意識は下」

１）Get *up*.（起きなさい。）

２）He *fell* asleep.（彼は眠りに落ちた。）

３）*Вставай*, пора *подниматься*!（起きて，起き上がる時間ですよ！）

４）Он *упал* на диван и тут же заснул.（彼はソファーに倒れこんですぐに寝入った。）

５）彼は椅子から立ち上がり，外を見た。

６）昏睡状態に陥った。

人は意識があるときは体を立てている状態が通常で，意識がないときは横たわっているため，こうした表現が生まれる。これも身体的な経験に基づくので日露英でほぼ共通であるが，fall asleep「眠りに落ちる」のような，垂直表現で入眠を表す直接的な表現はロシア語には非常に少なく（文語でのみ用いられる погрузиться в сон がある），「寝入る」「寝つく」のニュアンスに近い動詞 заснуть がよく使われる。動詞 заснуть は「動作の開始」を表す接頭辞 за が本動詞に付いて形成されている。ロシア語ではこうした接頭辞＋本動詞という形態が発達し，空間的意味や時間的意味などの付加的意味を接頭辞によって本動詞に足すことができる。前置詞の発達している英語では up や down などで独立した表現が可能であるのに対し，ロシア語では接頭辞つきの一つの動詞として上下が表現されることも多い。

③ HEALTH AND LIFE ARE UP；SICKNESS AND DEATH ARE DOWN「健康と生は上，病気と死は下」

1）He's at the *peak* of health.（彼は健康の最高点にいる。）

2）He *fell* ill.（彼は病気になった。）

3）He came *down* with the flu.（彼はインフルエンザで寝込んだ。）

4）Всегда оставайтесь на *вершине* здоровья!（健康のピークを常に保ってくださいね！）

5）Студент *свалился* с гриппом.（学生はインフルエンザで倒れた。）

6）体調が上向くのを待つ。

7）彼は病に倒れた。

健康で生きているときは上を向き，病気や死の状態になれば横たわるという身体反応に基づく言い回しで，日露英で共通している。

④ HAVING CONTROL or FORCE IS UP ; BEING SUBJECT TO CONTROL or FORCE IS DOWN「支配力や力があることは上，支配力や力に服従することは下」

1）His power *rose*.（彼の力が増した。）

2）He is *under* my control.（彼は私の支配下にいる。）

3）Благодаря спорту у меня *прибавилось* энергии.（スポーツのおかげで私は力が増してきた。）

4）Ситуация *под* контролем.（状況は制御下にある。）

5）上司・部下

6）お上・下々

7）年上・年下

8）彼は親の支配下にある。

力を持つ者は持たない者より体が大きいことが原点となり，肉体的な争いの際，勝者は高いところに上がり，敗者はうなだれ倒れこんだり，権力闘争においては支配力や権力を得た者も上に立ち，下にいる人々を跪かせる。力を持った者，持たない者のこうした身体的な上下の動きが，支配力，権力の上下に写像されている。3つの言語に共通する表現である。谷口（2006：78）にあるように，日本語では「都は上」というメタファーも成

立しており，「上り電車・下り電車」「上京」「おのぼりさん」「都落ち」といった独特な言い回しがあり，上下関係を重視する日本社会を反映している。

ところで，Lakoff & Johnson（1980）に言及はないが，地名に関する上下のメタファーについてここで触れておきたい。地名となるとそもそも空間的なものであるため，メタファー表現として認識されにくいが，実際にその土地が上下に位置しているわけではないのに，上下をもって名づけられている地名がある。たとえば「上越後」と「下越後」はかつての京に近い側を上越後，遠い側を下越後と呼んでいたこと，あるいは山地地帯を上越後，平地を下越後と呼んでいたことのいずれかに由来すると言われている[(1)]。また上石神井と下石神井は石神井川の上流か下流に位置するかによって上下で名づけられている。このように日本語の場合，川の水源や山の高い方に位置する場合は「上」，川の下流や海側の低いところに位置する場合「下」と名づけているケースもあるが，特徴的なのは政治的な中心地からみた位置関係として上下を用いることも多いという点である。英語でも upper/downtown，ロシア語では Верхневолжье（ヴェルフネヴォルジエ＝高いヴォルジエ[(2)]）/Нижний Новгород（ニジニ・ノヴゴロド＝低いノヴゴロド）のように，上下で地名を表すことがあるが，両言語ともに川の水源や高地 / 低地を表すことが多い。

⑤　FORESEEABLE FUTURE EVENTS ARE UP（and AHEAD）「予測できる未来の出来事は上（かつ前方）」

1）All *up* coming events are listed in the paper.（今後の予定はすべ

---

(1)　ちなみに新潟を表す「越後」という地名は前後の空間メタファーに基づいている。ほかに越前（福井県），越中（富山県）という呼び名もあるが，これもかつて京からの距離を近いところを「前」，離れたところを「後」と表していたことに由来する。権力の中心を「上」と認識し，そこから離れることを「下」と認識することに基づくメタファーが日本語には多いが，「前後」で権力の中心地からの距離を表していたこともあった。

(2)　ヴォルガという川の源がある地方を指す。

て書類に記載されている。）

2）What's coming *up* this week?（今週は何が持ち上がるか。）

3）I'm afraid of what's *up ahead* of us.（これから先に何があるかが怖い。）

4）Что ждёт нас *впереди*?（何が私たちのこの先に待っているのか。）

5）*Впереди* у нас много нового.（われわれの前にはたくさんの新しいことがある）

6）上旬・下旬

7）上半期・下半期

8）繰り上げ・繰り下げ

Lakoff & Johnson（1980）のこの時間に関する分類には，対概念のdown「下」に関する記述がなく，up そして ahead に関してのみ言及されている。「予測できる未来」に対し，「予測できる過去」という枠組みが成り立たないせいだろうが，上下のうちの一方しかないというのは不完全であり修正が必要とされる。Lakoff & Johnson によれば，このメタファーは，私たちの目は一般に自分が進むその方向を見るため，身体的経験に基づくものとされている。たしかに括弧内に記された ahead（日本語だと「前」あるいは「先」）に関しては，進む方向として実際に見るという身体的感覚として認識できるが，「上下」を時間として身体的に経験したことがあるかという点には疑問が残る[3]。また，「見える」のは未来だけで過去は見えないのだろうか。

上下という空間認識は重力を考えても上から下への流れが普通と考えられるが，Lakoff & Johnson では「上」を「未来」とした点からしても疑わしい。鐘・井上（2013：17）では，「早い時間は上，遅い時間は下」と

(3) Lakoff & Johnson (1980) では，「未来は前方，過去は後方」と「未来は後方，過去は前方」という相反するメタファーが共存していることが別の章で論じられている。たとえば in the weeks ahead of us のような「未来は前方」と，in the following weeks のような「未来は後方」の表現がある。

特徴づけているが[4]，これに従うと，例文６），７）の日本語表現も英語の up の例文も納得がいく。また例文８）の「繰り上げ・繰り下げ」に関しては，英語でも The exam was moved *up* a week（試験は１週間繰り上げられた）のような用法があるが，これも説明がつく。

日本語には上下で時間を特徴づける言い回しがたしかにあるが，例文であげたような一部の限られた慣用的な表現であり，上下の時間表現の汎用性，生産性が高いとは言えない。例文６），７）は時間を川の流れとして捉え，上流から下流へ流れるイメージが容易であるが，一般的に時間表現は「前後」を用いて特徴づけられることが多い。ロシア語でも時間を上下で捉えるという認識はなく，例文４），５）のように，英語の ahead と同義の впереди「前に」という語を用いた水平軸の「前後」に基づく表現が多少ある程度である。ほかには「遠近」близко/далеко[5]で表すこともあるが，より一般には日本語の上旬，中旬，下旬にあたる表現では начало/середина/конец（はじめ，中頃，おわり）を用いる。

ロシア語では詩などで высокий час/верховный час（高い / 最上の時間）という表現が存在する。これは運命的な時間，すべてが決定される時間というニュアンスがある。後述するが，ロシア語では精神的なものや魂をもっとも崇高な世界として「上」と認識されており，ここでの表現はその表れである。

２．物理的経験に基づく上下メタファー

⑥　MORE IS UP ; LESS IS DOWN「より多いことは上，より少ないこ

---

(4)「早い時間は上，遅い時間は下」という日本語のメタファーは中国語からの影響を受けた可能性が強いという指摘もある（鐘・井上（2013：17））。

(5)「遠近」を用いたロシア語の例文は次のようなものがある。

Наметим встречу на *ближайшие* даты?（いちばん近い日程で会う日を決めようか。）

Это слишком *далеко*, я ещё не знаю свои планы на конец месяца.（それは遠すぎる。私はまだ自分の月末の予定がわからない。）

とは下」

1）My income *rose* last year.（私の収入は去年上がった。）

2）His income *fell* last year.（彼の収入は昨年下がった。）

3）He is *under* age.（彼は未成年だ。）

4）If you're too hot, turn the heat *down*.（暑ければ，暖房を下げて。）。

5）Зарплата россиян *выросла*.（ロシアの人々の給料が上がった。）

6）Из-за кризиса зарплата *снизилась*.（危機のため給料が下がった。）

7）*Несовершеннолетний* юнец[(6)].（未成年者）

8）熱が上がる・下がる。

9）物価が上がる・下がる。

物は増えれば増えるほど山のように高く積み重なり，嵩が上がることから生まれたメタファーである。上の3つの言語以外でも価格や温度，スピード，血圧などの尺度を表すには上下を用いずにほかに表現するのが難しいほど定着したメタファーである。

⑦　GOOD IS UP, BAD IS DOWN「よいことは上，悪いことは下」

1）Things are looking *up*.（景気は上向きつつある。）

2）Things are at an all-time *low*.（景気は史上最低である。）

3）Экономическая *депрессия*.（経済不況）

4）Дела *пошли в гору*.（事情が山を上がりはじめた。＝好転した）

5）Всё так плохо, что руки *опускаются*.（手が下がるほど，すべてがうまくいっていない。）

6）У меня всё внутри *опустилось*.（私はひどくがっかりした。）

7）上等・下等

---

(6)　несовершеннолетний という形容詞は не＋совершенн (о)＋летний と分解できるが，совершенн という語幹には верх「上」という語が含まれている。ここから「上の年齢に達していない」の意味になっている。同一語源の語で，совершенный（完全な）/несовершенный（不完全な）という形容詞もあるが，これも「上が達成されている・達成されていない」という語源的な意味が隠れているのが興味深い。

8）上手（じょうず）・下手（へた）

Lakoff & Johnson（1980）はこの分類に関して「幸福，健康，生命，制御力といった主に人間にとって好ましいものを特徴づけるものはすべて上」と定義しているが，①や③，⑤と重なっている部分もある。もちろんメタファーは一つの基盤にのみ基づいているものではなく，むしろ複合的なものが多い。Lakoff & Johnson（1980：23）が指摘しているが，The crime rate is going *up*.（犯罪率が上昇している）のように「悪いこと」でも up が用いられるのは，「より多いものが上」というメタファーが「よいことは上」のメタファーよりも物理的な私たちの経験が安定した盤石なものであるために優先されるためである。このように複合的な基盤にまたがるメタファーの場合は，私たちの経験によってより明確に認識される方に傾くことがある。

3．社会的・物理的基盤

⑧　HIGH STATUS IS UP ; LOW STATUS IS DOWN「高い地位は上，低い地位は下」

1）She'll *rise* to the *top*.（彼女は頂点まで昇りつめるだろう。）

2）He's at the *bottom* of the social hierarchy.（彼は社会階層の底辺にいる。）

3）She *fell* in status.（彼女は地位が落ちた。）

4）На Руси общество подразделялось на *высшие* и *низшие* сословия.（ルーシでは社会は上流階級と下流階級に分かれていた。）

5）Писатель был на *вершине* славы.（作家は栄光の頂点にいた。）

6）Карьера пошла *вверх*.（キャリアは絶好調になりはじめた。）

7）После развода он *опустился на самое дно*.（彼は離婚後どん底に落ちぶれた。）

8）昇格・降格

9）上層部の意見に従う。

地位は支配力や力と結びつくため，この分類は④と非常に似かよっている。日英露の３言語で同じような表現が見られ，直訳しても意味が自然に通る。

４．物理的・社会的基盤

⑨　VIRTUE IS UP, DEPRAVITY IS DOWN「善行は上，悪行は下」

１）He is *high*-minded.（彼は高潔である。）

２）That was a *low* trick.（これは卑劣手段だった。）

３）Don't be *underhanded*.（不正なやり方はしないでください。）

４）Он был человеком *высокого* ума.（彼は高い知性の持ち主だった。）

５）Он был движим *высокими* чувствами.（彼は気高い感情に動かされていた。）

６）Ты совсем *опустился*! Возьми себя в руки!（あなたは完全に落ちぶれた！しっかりしなさい！）

７）Он поступил *низко* и подло.（彼の行動は低俗で卑怯だった。）

８）Какая *низость* – предать друга! 友達を裏切るのは下劣だ。

９）上品・下品

10）気高い心の持ち主。

11）ギャンブルで身を持ち崩す。

この分類は⑦の「よいことは上」に社会的な善悪を加えたものであり，３つの言語に共通するわかりやすいメタファーである。

これと関連して次の考察もある。ロシア語の表現にみられる人間界と動物界を上下のパラダイムで捉えて善悪を表す点である。Опуститься　до уровня　животного（動物のレベルまで下がる）という表現もある。Опуститься「下がる」という動詞は，上下表現で使用頻度が高く，⑧の７）や⑨の６）のように，「落ちぶれる」と意味する。Опуститься　до уровня　животного という表現の使用は限定的で文章語でよく見られるが，犯罪など非人間的とされる行為をした際に用いられる。たとえば，

Совершив убийство, он опустился до уровня животного（彼は殺人を犯し，動物のレベルまで下がった）。また，人間についての животные инстинкты（動物的本能）という表現もこのパラダイムの拡張と考えられる。このように，「善行は上，悪行は下」のメタファー構造のなかに，「上＝善行＝人間」，「下＝悪行（あるいは生理的に汚い行為など）＝動物」という対立があり，欧米にみられる人間中心主義的な考えかたがあらわれている。

5．物理的・文化的基盤

⑩　RATIONAL IS UP ; EMOTIONAL IS DOWN「理性的なことは上，感情的なことは下」

1）The discussion *fell* to the *emotional* level, but I *raised* it back *up* to the *rational* plane.（話し合いは感情的レベルに落ちたが，私が理性的な局面に引き上げた。）

2）Давайте не будем *впадать в эмоции*, и обсудим всё спокойно.（感情に陥らないで，落ち着いてすべてについて議論しましょう。）

④の「支配は上」のメタファーから「人間は上」そして「理性は上」というメタファーへと拡張してできた表現である。たしかに英語ではほかに raise a question（問題を提起する）のように，理性や合理性に関わることを「上げる」で表現する。ロシア語でも同じような言いかたが可能であり，欧米の文化圏では理性を持つ人間が動物や植物やそれらをとりまく環境に対する支配力を持つことから「理性的なことは上，感情的なことは下」とされているが，このメタファーは日本語では当てはまらない。谷口（2003：29）によると，日本語ではむしろ EMOTIONAL IS UP と考えられるメタファーが存在している。

3）感情が湧き上がってくる。

4）舞台に出て，あがってしまった。

5）彼女はいつも落ち着いている。

6）彼は地に足のついた人だ。

また英語でも RATIONAL IS UP とは矛盾するメタファーも存在する（谷口 2003：29-30）。

7）She's calm *down*.（彼女は落ち着いている。）

8）He was keyed *up*.（彼は興奮していた。）

9）His tension is always *high*.（彼のテンションはいつも高い。）

英語圏でも「理性は上」というメタファーが成り立たず，むしろ反対の意味になることもあるように，このメタファーは安定していない。メタファーは経験に基づく表現のため，文化的，社会的な違いによって異なるメタファーが生じるが，この⑩はとりわけ文化的な要素が強く反映されたものとなっている。

欧米では「理性は上」というメタファーが文化的な固有の表現と考えられるが，ロシア語ではここから拡張したと考えられるもう一つのメタファー「魂（дух/душа）は上，身体は下」が用いられる。

10）Душа верующего человека устремлена *вверх*.（信仰のある人の魂は上に向かっている。）

11）Тело *бренно*.（身体は朽ち果てる。）

12）Человеку свойственны *низменные* желания.（下劣な欲望は人間につきものだ。）

13）Не *падай* духом!（魂を落とさないで！＝めげないで！）

キリスト教の宗教的意味合いが強いメタファーである。魂は崇高で上方に果てしなく昇るものであるのに対し，身体には動物的な野蛮性があり，やがては朽ち果て，土に（「下」に）還る限界のあるものという認識からなるものである。

6．結論

Lakoff & Johnson に従って，日本語とロシア語の上下表現を列挙してみると，どのような形式を用いて表すかという手段の違いもみえてきた。英語では前置詞 up/down による表現がもっとも多く，そのほかに形容詞

high/low，動詞 rise/fall，名詞 top/bottom を用いる表現もあり，非常に多様な表現方法が浮かび上がった。日本語では「上下」から派生した動詞「上がる・下がる」を中心に動詞を用いる表現が多いほか，「上司・部下」「上旬・下旬」のような漢字の組み合わせという日本語特有の表現方法も目立つ。ロシア語では英語のような前置詞を用いる表現は少なく，подняться/упасть（上がる・落ちる）を中心とした動詞を用いるケースが多い。形容詞 высокий/низкий（高い・低い）や名詞 верх/низ（高・低）などが用いられるのは英語と変わりない。

前述したが，ロシア語における特徴的な文法事項として接頭辞＋動詞の形式がある。動詞に「上下」などの空間的な意味をもつ接頭辞を付与し，複合的な意味を作るものであるが，これも上下の意味を表す際に大きな役割を果たしている。こうした上下表現の比較によって，各言語の代表的な特徴が浮き彫りになるのは興味深い。英語の場合，get up，wake up，sit down，come down のように「上下」メタファーが句動詞で用いられることが多く，このおかげで「上下」の意味は非常に明確化される。一方，ロシア語は接頭辞によって動詞に「上下」の意味が内蔵され，「上下」の感覚は動詞のなかで暗示される程度で，ロシア語の話し手にとって「上下」の認識はさほど強くない。たとえば встать（起き上がる）は接頭辞 в（上方へ）＋本動詞 стать（立ち上がる）からなり，動詞のなかにすでに「上」の意味が含まれているが，ロシア語話者にとって「上」を表す接頭辞 в が含まれていることはまず意識にない。歴史的に英語は前置詞を発達させてきたが，これにより空間表現は多用され，意味もはっきりと明示される。接頭辞つきの動詞が多いロシア語では，up にあたる вверх が句動詞となって用いられることはまずない。ロシア語文法におけるのこうした形式的な特徴によって，ロシア語話者の空間認識が英語話者と比べると曖昧で明確でないといえるかを本稿で結論づけることができたとまではいえないが，この点は今後の研究課題である。

またロシア語の上下表現では身体部分を用いたイディオムが目立ってい

る。本稿での例文では Не падай *духом*!（魂を落とさないで！＝めげないで！）や Всё так плохо, что *руки* опускаются.（手が下がるほど，すべてがうまくいっていない。）や Ты совсем опустился! Возьми себя в *руки*!（あなたは完全に落ちぶれた！手で自分を持ち上げて＝しっかりしなさい！）があった。「魂」というもっとも高いところにあるものを「落とさないで」と表現したり，「手」を用いたイディオムでは，手が下がることでよくないことを表したり，手で自分を持ち上げることでよい状態にすることを表している。物事の善悪や健康の良し悪しなどに関してみられる上下のメタファーをロシア語の話し手はさらに身体の上下を通じて捉える傾向があるといえる。ほかにも Душа ушла у *пятки*. は「ぞっとした」という意味のイディオムであるが，文字どおりには，恐怖心で「魂」がかかとまで降りて隠れてしまったという意味である。本来，崇高で高い位置にある魂がかかとという低い位置まで下がることで恐怖を表している。このように，「人間は上，動物は下」というカテゴリーの下に，さらに人間に焦点をあてた「魂は上，身体は下」という下位カテゴリーがある。ロシア語ではこの「魂」や「身体」の語で感情や心理状態の上下を表すことが他言語より多くみられ，こうしたメタファーはロシア語話者に深く根づいている。日本語の話し手には「人間は上，動物は下」といった認識は多少あるが（たとえば「人間以下」），ロシア語ほど強いイメージはなく，「魂は上，身体は下」に至っては皆無といえよう。日本語ではやはり政治的・社会的中心部を「上」と捉えるメタファーや時間を上下で捉えるメタファーが発達していることが特徴といえるだろう。

参考文献

谷口一美（2003）『認知意味論の新展開：メタファーとメトニミー』．研究社.
山梨正明（2012）『認知意味論研究』．研究社.
鐘勇，井上奈良彦（2013）「日本語における上下メタファーの体系構成及びその特徴に関する一考察」『言語文化論究』13-26.
Lakoff, G., & Johnson, M. 1980. Metaphors We Live By. Chicago and London:

University of Chicago Press.（渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸（訳）1986.『レトリックと人生』. 大修館書店.）

Pavlenko, Aneta. 2005. Emotions and Multilingualism. New York: Cambridge University Press.

Taylor, J. R. 1989. Linguistic Categorization: Prototypes in Linguistic Theory. Oxford: Clarendon Press.（辻幸夫（訳）1996.『認知言語学のための14章』. 紀伊国屋書店.）

Пономарёва, Н.В. 2007. Семантический и словообразовательный потенциал имён топологических зон ВЕРХ/НИЗ: на материале русского литературного языка. Кандидатская диссертация. Кафедра русского языка и общего языкознания Иркутского государственного университета.